

## 研究経過報告書

令和3年4月7日

研究員 (留学者)	所属 体育学部 職 教授 氏名 沼本宏俊
派遣期間	令和2年10月1日～令和3年3月31日
研究主題等	東京大学総合研究博物館に保管されているイラク、テル・サラサート遺跡出土の資料分析
報告事項	(研究活動の概要、内容、成果等、添付書類の見出し等)
	東大総合研究博物館に保管されている同大学イラク・イラン遺跡調査団が1965, 66に実施したイラク北部のテル・サラサート1号丘、5号丘から出土した土器の整理・分析を行った。
	1号丘出土の古バビロニア時代(前20～18世紀)の土器資料が約5万点保管されているが、殆どが未整理であるため、まず観察、実測作図作業、写真撮影、製図作業を行った。5号丘出土のニネヴェ5期(前30～27世紀)の土器は約7トンの膨大な量が保管されている。これらの土器を種類ごとに分類し、土器組成を究明したうえで重要土器を選別し実測作図作業と写真撮影を実施した。今回の整理分析作業から二つの時代の土器のほぼ正確な年代を特定することができた。これらの二つの時代は北メソポタミアでは謎の文化期と呼ばれ、土器編年、支配体制、社会構造の実態は依然未解明である。本資料の分析成果は欧米学会も注目しており、早急に公表をしたいと考えている。
	なお、詳細な成果報告については別途提出いたします。

# 研究経過報告書

研究員：体育学部・教授 沼本宏俊

派遣期間：令和2年10月1日～令和3年3月31日

研究主題：北メソポタミアの土器研究

東京大学総合研究博物館に保管されているイラク、テル・サラサート遺跡出土の土器分析

## 報告事項（研究活動の目的、概要、内容、成果等）

### 研究目的

近年、イラク、クルド自治区のドホーク県、エルビル県では欧米隊により前3～1千年紀の遺跡が数多く調査されている。こうした調査によって出土する遺物として、彩文・刻文土器が特徴的なニネヴェ5期(前3千年紀前半～中頃)の土器とハブール土器に代表される古バビロニア時代(前20～18世紀)の彩文土器が、研究対象として注目されている。こうした中、これらの時代の標準資料として嘗て東京大学イラク・イラン調査団が1965～66年に調査したイラク北部のテル・サラサート遺跡V号丘出土のニネヴェ5土器資料とI号丘出土古バビロニア時代の土器資料に関心が注がれ、その研究成果の公表が待望されている。両丘の調査で出土した資料は、登録品以外全てを国内に持ち帰っており、東京大学総合研究博物館には膨大な量の両時代の土器が保管されている。そこで本研究期間には、これらの未公表資料を多方面から整理分析して公表し、欧米学会が注目する両時代の文化編年、歴史的・社会的解明に貢献したい。

ニネヴェ5期は北メソポタミア(イラク北部とシリア北東部)で前3000～2400年頃にかけて興隆した独特な彩文土器と刻文土器に代表される文化である(図4)。同時代の北メソポタミアでは、楔形文書資料は未だ確認されておらず、文化編年や社会構造の実態は明らかでない。1980年以降、イラク北部やシリア北東部で数多くのニネヴェ5期の遺跡が発掘され、欧米の研究者たちはこの「謎の文化」の解明を共通のテーマとして積極的に調査研究に取り組んできた。こうした調査研究は、北メソポタミアが村落社会から都市社会に変貌してゆく歴史的背景と、南メソポタミアのシュメール文明との関連を究明したいという関心によって動機づけられてきた。

派遣研究員はイラク北部のエスキ・モースル地区でニネヴェ5期遺跡の調査に従事し、彩文・刻文土器の形式と文様の特徴及び共伴関係から同時期の編年を設定した。1995～96年には本研究が対象とするテル・サラサートV号丘出土ニネヴェ5土器の整理分析を行い、それまでの編年をさらに改正した。しかし、整理分析は、途中で中断され、なお不十分で、この時代の精確な土器編年を構築するためには更なる綿密な研究の必要性を痛感している。

一方、古バビロニア時代の所謂ハブール土器の正確な土器編年も、現状では確立されていない。古バビロニア土器群は、I号丘頂部の第一層の地下式石室を持つ埋葬遺構、第二層の円形壁の祭祀遺構から出土している(図5～8)。これらは北メソポタミアの同時代には類例のない遺構で、発掘当時はその成果が注目されたが、正式な報告書は未だに刊行されていない。同時代の土器資料が大量に保管されている例は少なく、非常に貴重な資料で、整理分析し公表を急ぐ必要がある。

同研究員は北メソポタミア地方のティグリス川上流域とシリア、ハブール川流域で長年の調査研究を経験しており、当該地域における先史時代から歴史時代における土器編年等の諸問題は十分に理解している。テル・サラサートは、同研究員が調査研究してきたシリア、テル・タバンの遺跡と地理的に接しており、物質文化も先史時代から共通し、テル・タバンの資料と比較することにより正確な年代を提示できる。そこで、これまでの調査で蓄積した研究成果を深化し、前3～1千年紀における北メソポタミアの物質文化の展開と歴史的諸問題の解決に貢献しうる課題として、本研究の着想に至った。

## 研究活動の概要と内容

東京大学総合研究博物館6階に保管されているテル・サラサート遺跡I号丘、V号丘の第四次発掘調査で出土したニネヴェ5土器と古バビロニア土器の未公表資料の整理・分析を行った(図1～3)。

### V号丘出土のニネヴェ5土器の整理分析：

同館にはテル・サラサートV号丘出土のニネヴェ5土器資料が約7トン保管されている。派遣研究員は1995～96年に科研費の採択を受け、同資料の研究調査を行った。日乾煉瓦造の穀物倉庫と円形遺構から出土した土器を整理した結果、彩文土器: 514点、刻文土器: 336点、灰色土器: 1164点が存在することを確認し、これらの土器の整理分析はほぼ終了している。

派遣期間内はこれらの土器の出版に向けて各種土器を見直し、詳細な観察と写真撮影を行った(図4)。同時にこれらの土器を近年の他遺跡の調査で出土した資料と比較、再検討し、ニネヴェ5期での正確な年代付を検討した。また、素文の中・大型土器、粗製土器の大半は未整理であり、これを選別し実測図化、ならびに写真撮影を行った。

### I号丘出土古バビロニア土器の整理分析：

1965～66年に調査したI号丘頂部(図1参照)出土の古バビロニア時代(前20～18世紀)の土器資料が約1トン保管されている。

1. 発掘調査日誌、遺物台帳、出土遺物実測図、遺構図等の全ての調査資料を見返し、土器資料と出土地を照合し再検証した。
2. 保管土器は第一層の特殊な埋葬施設と推測される6つの小部屋と地下式石積み遺構から出土しており、まず各部屋・地下式遺構ごとに土器を分類した。

3. 上述の出土地から計約 700 点の土器を抽出し、ハブール土器等の特徴的な器形を選別・分類し、実測図化、観察、写真撮影、トレースを行った。特に埋葬小部屋の一つ C1 と地下式石積み遺構 R4 の出土品に重点を置いた(図 5～8)。

4. テル・タバンの古バビロニア土器と比較し、第一層の埋葬遺構の正確な年代を決定した。

## 研究成果と今後の展望

### V号丘出土のニネヴェ 5 土器研究：

現状ではニネヴェ 5 期の正確な編年は分かっていないが、テル・サラサートから発見された建築址、遺物はニネヴェ 5 期のある一つの時期「彩文と初期刻文期」の標準とされ、資料的価値が高く、論文・報告書には常に引用されており、同時期の考古遺物の中でも最も注目すべき資料の一つとされている。ニネヴェ 5 土器がこれほど纏まった量が保管されている例は諸外国にはないが、資料はごく一部しか報告されておらず、その大半は未整理で貴重な資料が埋もれているといっても過言ではない。今後この資料を多方面から整理分析し、国内外に公表すればニネヴェ 5 期文化の解明に大いに貢献する。

これまでの研究調査から以下の注目すべき新事実が明らかになった。既刊の報告書では出土土器は全て同一時期に伴ったものと見做されていたが、上層と下層から出土した灰色・刻文土器群の形式には歴然とした差異が認められ、明らかに時期差を示していることが判明した。特に上層から出土した土器群は派遣研究員が設定した「初期削文期」に伴うことが実証できた。さらに未公表資料の中には、公表された彩文・刻文土器とは異なる新しい様式のもの数多く認められた。これらのニネヴェ 5 彩文土器と刻文土器の単行本もしくはカタログでの出版を計画している。

今後はこの資料を更に多方面から統計的に解析し、編年、土器の用途、生産体系、建物の機能、さらにはこの時期の社会構造の解明を目指す。

サラサート V 号丘出土のニネヴェ 5 土器分析研究を遂行することにより、今後は以下の諸問題について究明したい。1)ニネヴェ 5 期文化の編年と社会構造を解明し、2)土器の様相とその変化を通じて村落社会から都市化への変遷過程とその背景を探り、3)南北メソポタミアの土器編年の相互関係を追求して、シュメールの都市文明と北メソポタミアとの文化的関連を比較研究する。

### I号丘出土古バビロニア土器研究：

1. I号丘の古バビロニア土器資料の整理分析での最大の成果は、同時代では類例のない王墓クラスと推測される地下式墓の正確な年代を提示できたことである。
2. 第一層の埋葬遺構からの出土土器はテル・タバンの古バビロニア時代の粘土板文書と共に出土した土器群に酷似しており、ほぼ同時期と考えられテル・タバン土器編年の OB期①(前19世紀初頭)に相当することが分かった。出土土器をさらに詳細に整理分析し、

他遺跡の出土品と比較することにより正確な年代を提示することが可能である。

3. 1976年度に調査した第二層の祭祀遺構出土の土器は保管されていないため、現地で作成された実測図の整理、トレースを行う。さらに第二層の埋葬・祭祀遺構図の整理を行い、正確な遺構の機能と正確な年代を特定する。
4. 出土土器の自然科学的分析を行い、メソポタミア北東部と北西部での土器交流のあり方を探る。
5. 同時代の土器組成と編年を究明し、さらに検出した遺構の詳細な分析を行い機能を特定したうえで、研究成果を公表する。令和4年度には成果を公表する。最終的には未刊のI号丘の発掘調査報告書の出版を目指す。

研究成果を公表することにより、ニネヴェ5と古バビロニアの両時代でのサラサートの占める重要性と資料としての利用価値は国際的により一層高まるのは確実である。

最後に、本在外研究で得た成果を今後の授業で有効に活用したい。特に、北メソポタミアで都市化の先駆けとなったニネヴェ5期とメソポタミア都市の繁栄期である古バビロニア時代に関しての歴史・社会・文化について講義し、世界最古のメソポタミアの都市文明の重要性について理解させたい。



図1. イラク、テル・サラサート遺跡 I,V号丘



図2. 東大総合研究博物館保管のテル・サラサート出土資料



図3. 整理中のテル・サラサート出土土器資料





図4. テル・サラサートV号丘出土のニネヴェ5土器

上段：彩文土器

中段：灰色刻文土器

下段：素文大型土器

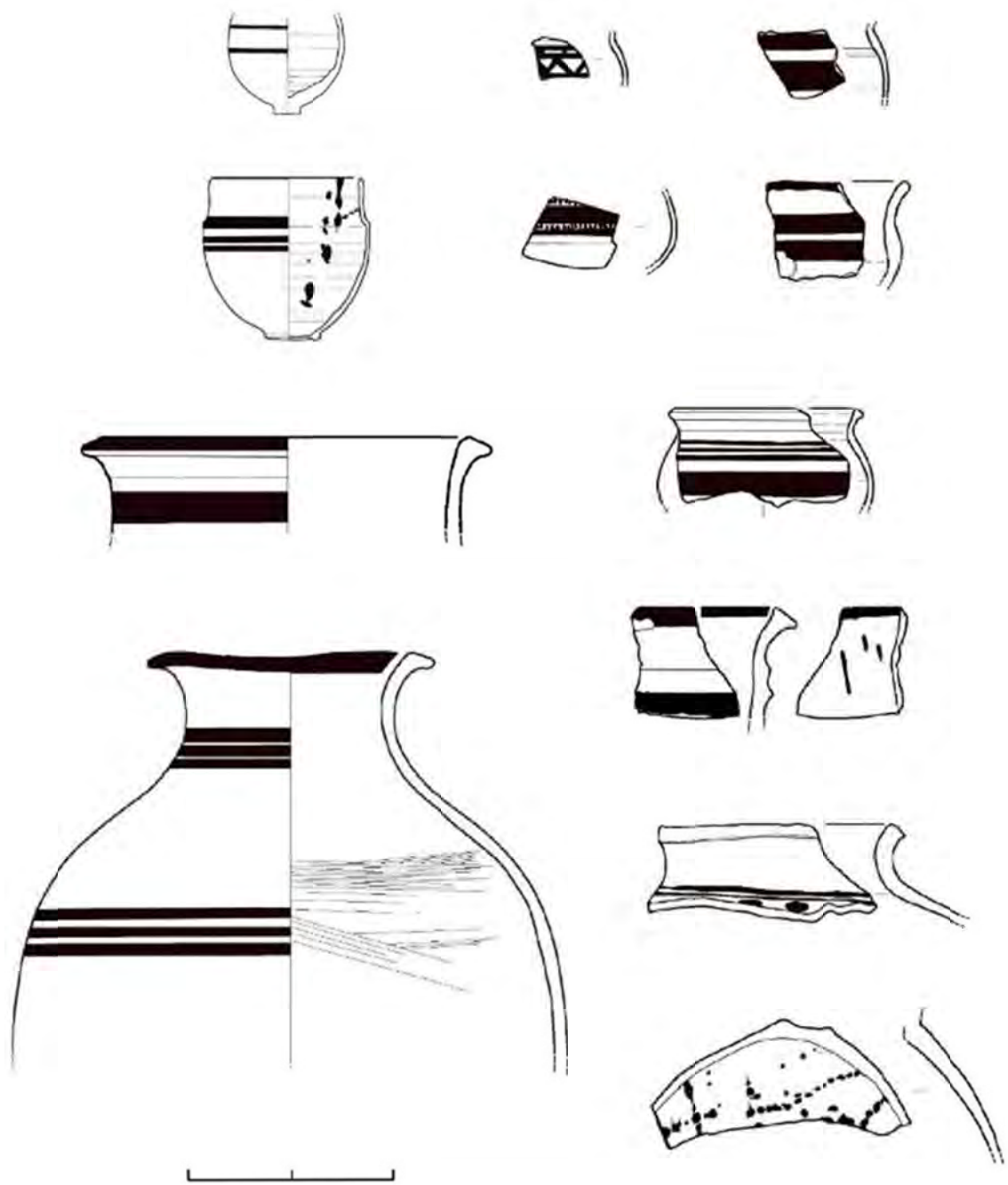


図5. テル・サラサート1号丘出土の古バビロニア彩文土器





図 6. テル・サラサート 1 号丘出土の古バビロニア彩文土器

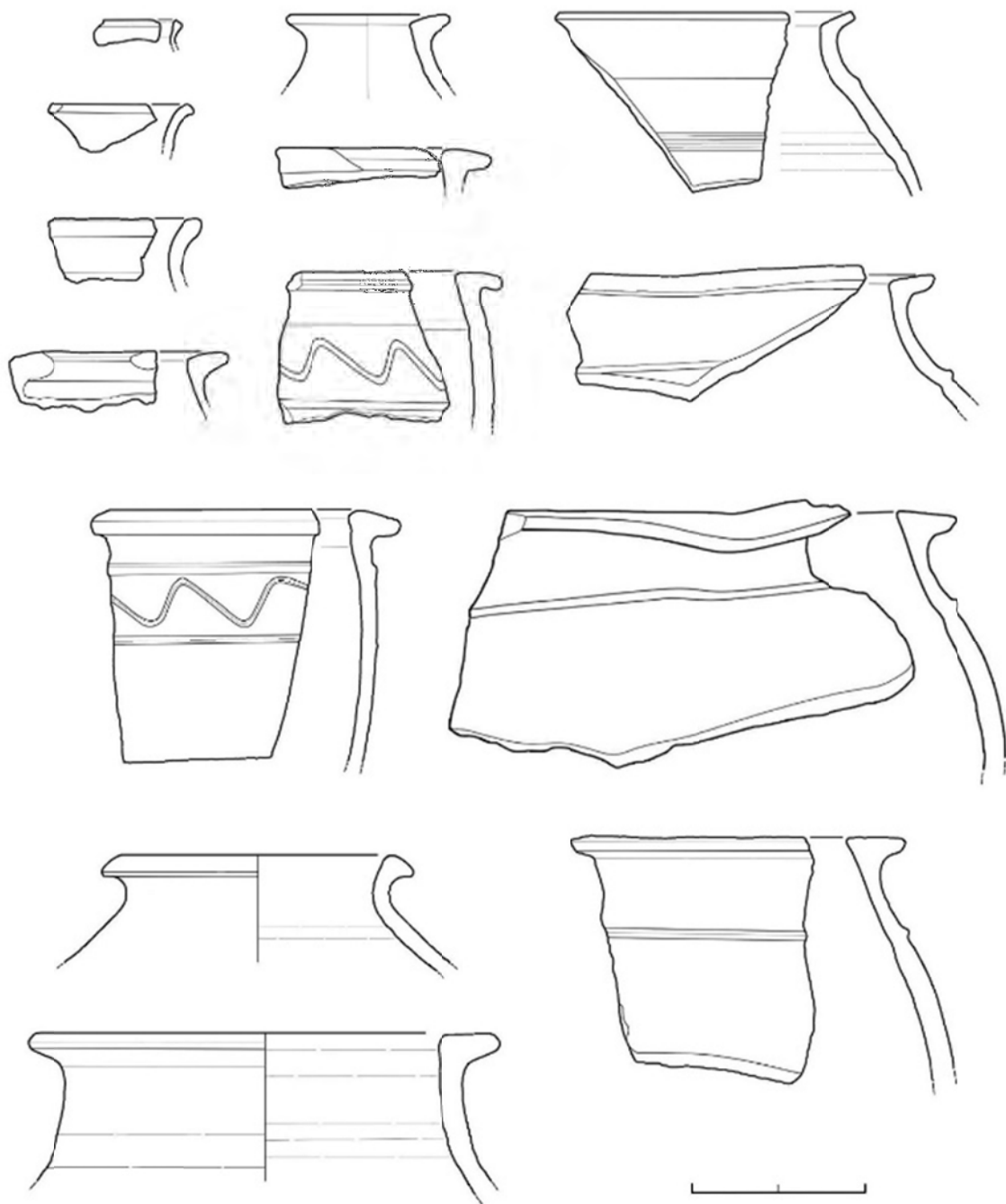


図7. テル・サラサート1号丘出土の古バビロニア土器

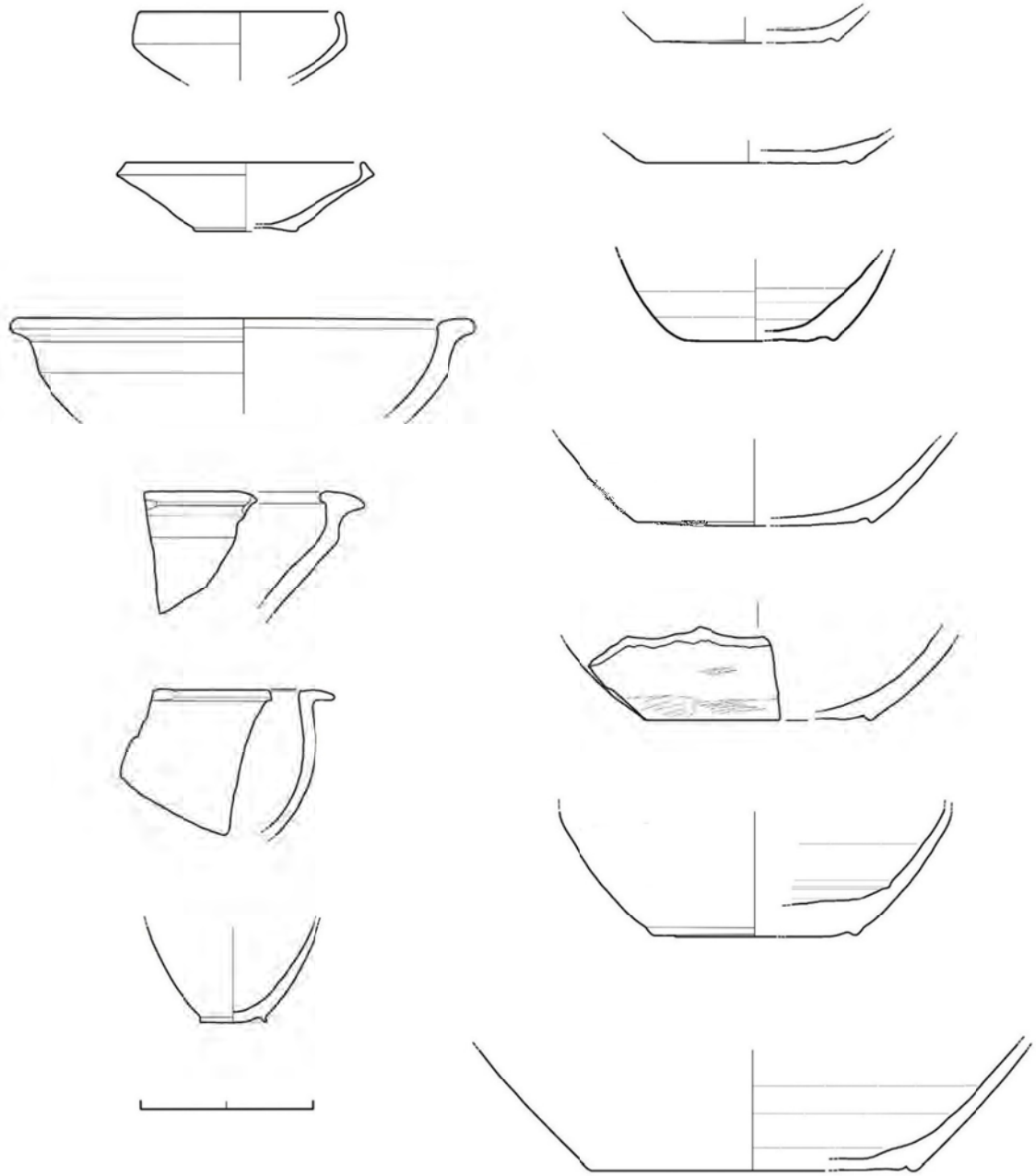


図 8. テル・サラサート 1 号丘出土の古バビロニア土器